

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105714		
法人名	医療法人 おおぞら会		
事業所名	グループホーム おおぞら(1階)		
所在地	岡山県岡山市北区大安寺南町1-11-28		
自己評価作成日	平成 24年 5 月 9 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	tp://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105714&SCD=320&PCD=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24年 6 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1人ひとりが安心して暮らせる場としての工夫をしている。 家庭と変わらない環境作りとして、庭、果実、花、魚、ペット、家具の設置、くつろげる雰囲気としている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>門を入ると英国庭園のような緑あふれる庭があり、建物を取り囲むようにビワやブドウ、柿など果物やプランターにはサラダ菜が植えられており、成長や収穫を楽しむ事ができる。玄関を入ると2匹の愛犬が出迎えてくれ、グッピーやミッキーマウスなど熱帯魚の水槽も置かれており、利用者の癒しとなっている。フロアでは塗り絵をする人や新聞紙でゴミ箱を折る人等利用者が自分の好きな事をマイペースに行っている。管理者は『安全、安心、家庭的なホーム』という理念をモットーに日々の支援を行っており、チームワークを大切にスタッフの意識の向上に努めている。母体が医療機関という事もあり、医師や訪問看護との連携が密に出来ており、希望があれば看取りまで対応することができる。昨年度、緊急避難用の滑り台が設置され、火災想定を元に体験訓練の実施や災害時の為に3ヵ月分の備品を用意するなど防災意識も高いことが感じられる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは理念を掘り下げて職員全体で話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている	『安全、安心、家庭的なホーム』という理念をフロアに掲示している。家庭的というキーワードが院長のモットーになっている。毎月のミーティングは全員参加を基本としており、1人1人の援助内容について、どうしてこの方法で援助をするのかという意味を考え、支援するよう指導を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、リサイクル活動ゴミステーション当番、回覧板を回したりして接点を持つようにしている。日常的に買い物に出かけ会話している。	町内会には加入しており、地域の祭り等参加している。近所周りには挨拶をしており、施設のイベントなどお知らせしている。近くの保育園児が散歩の途中で寄ってくれることもある。	地域性もあり、協力関係の構築に対し、苦慮されている様子を感じました。今後も事業所からの発信を継続して頂けるようお願いいたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校や保育園との交流を声かけしお願いしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回取り扱った内容の進展状況や新しい事例又は、利用者さんの近況を伝えたり希望質問等話し合っている。	2ヶ月に1回、開催している。参加者は家族、町内会長、民生委員、地域包括職員、同仁病院栄養士、GH職員である。最近の状況を報告しあい、情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会に市町村の担当者に利用者さんの暮らしぶりやニーズを具体的に伝え連携を深めている。	介護職員による吸引等制度改正で分からない所があれば随時介護保険課に問い合わせをしている。また生活保護を受給している利用者もいるため、福祉課の担当に報告を行い、随時相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所で実施し、職員の共有認識を図っている。	身体拘束に関する勉強会は年2回行っている。交通量が多いこともあり、玄関は施錠しているが、利用者が希望すればいつでも一緒に出る事ができる。本人にとって必要かどうかを主治医、家族と相談し、同意を得られればY字ベルトの使用等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで理解浸透に向けた取り組みをしている。申し送りで日常のケアで見過ごされていないか注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会ある毎に職員に説明している。勉強会に出席し、相談したりして家族にもその件を手紙にして伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をしっかり取り、契約時に重度化や看取りについての対応医療連携体制の実際について説明し、同意を得ている。状態変化等による契約解除についても家族共納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問できない方へ手紙で、他は訪問時また状態変化時に電話で知らせている。出された意見等はミーティングで話し合い反映させている。	面会時に利用者の状況を報告し、家族の意見や希望を伺っている。運営推進会議の報告や毎月自筆の手紙を送るなど交流を図り、信頼関係の構築に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は職員の意見を聞くよう心がけているが納得いくまで話し合いチームプレーがスムーズにいくよう努めている。また勉強会ミーティングでもテーマを扱っている。	日頃から管理者に職員から意見や相談があり、時間をかけ納得行くまで話し合うことにより、わだかまり無く、仕事ができる環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格向上に向けた支援を行い疲労やストレスの要因について心配りして、勤務中でも気分転換できる場面作りをし、人間関係の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外の研修にも積極的に参加してもらい毎年事業所内で研修し、2カ月1回でやっている。新人へは1ヶ月研修。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学を心がけて意見や経験をケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状態を把握するように努め本人の希望、家族の希望をよく収集しケアに生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し事業所としては、どのような対応ができるのか事前に話し合い同意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、本人の必要を確認してよりよいケアになるよう努力し、変更もしたり柔軟に対応し信頼関係に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根底にある苦しみや不安喜びなどを知ること努め暮らしの中、共に支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら本人の日常の状態をこまめに報告相談するとともに電話をかけて話してもらったり手紙を書いて状態を知らせ関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用してもらったり墓参り、外食、入院されている身内の見舞い、記念日参加など積極的に交流できる支援に努めている。	面会時間を定めず、朝6時頃から夜9時頃までいつでも受け入れており、利用者の友人が面会に来ることもある。入居前からの馴染みの美容院や歯科など家族の協力により通っている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をよく傾聴したり、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となったり感情の変化にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族にも遊びに来てもらうよう声かけしている。イベントの時にはお誘いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいのか何を食べたいのか日々の行動や表情からくみ取り把握し、穏やかに過ごせるよう努めている。	日常生活の中でできるだけコミュニケーションを図り、本人の思いや希望を把握している。また、普段と違う様子や表情を感じる時には時間をかけ、1対1でしっかりと話しを傾聴するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者の独自の生活歴やライフスタイル価値観等把握して今までどのようなサービスをうけてこられたのか傾聴し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解してできる事に注目し、本人の全体系を確認して、本人への働きかけ方を工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを傾聴し、家族の思いもよく聴いて職員全体で意見交換やモニタリングカンファレンスをして計画している。	ケアプラン作成時には改めて本人や家族の思いや希望を聞き、プランに反映している。また医師の意見や職員の意見をカンファレンスにて話し合い、本人にあったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や職員の気づきを個々のケア記録をして職員間の情報の共有を徹底している。記録を基にして介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向を配慮しながら家族の方にも食事を時に提供などし通院など支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加して下さる方々より意見交換し、情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医又は、求医院の合意を得て家族同行及び職員同行し、必要に応じ普段の様子変化を伝えている。	2週間に1回、母体の病院から往診があり健康管理を行っている。管理者が看護師という事もあり、何か変化があれば早期発見ができ、その都度医師に相談し、対応している。訪問看護とも連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。変化に気づいたら看護職員に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報を医療機関に提供し、週1回は、職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意志確認を作成し、医師・職員が連携を取り安心して納得した最期を迎えられるように随時意思を確認しながら取り組んでいる。	看取りについての指針書を作成し、入居時に説明している。重度化した時には主治医から家族に状態を説明し、気持ちを確認している。職員は本人の状態を頻繁に家族に報告し、できるだけ安心して自然のまま看取りができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急対応について、マニュアルを作成周知徹底を図っている。毎年、研修会で対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制について運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、避難訓練を行っている。昨年度、緊急避難用の滑り台が設置され、実際に利用者も滑り台使用しての避難を時間を計測し実施している。ベランダの段差の改善や寝たきりの方は後ろから支えて滑るなど反省点や問題点を話し合い、緊急時に活かせるよう努めている。	緊急避難用滑り台の脇に庭の木や花が多く茂っていたので、避難時に動きやすいよう環境整備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考えてあげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	部屋で過ごす時間が多い利用者のために、部屋の入口にのれんをかけ、プライバシーを確保しつつ、フロアの音が聞こえたり、職員が見守りをしやすくしている。一人一人の気持ちをしっかりと聴き、自己決定できるよう努めている。	利用者への声かけはとても難しいものだと思います。利用者に対し、親しみを込めて家族のように話すことも大切だと思いますが、新人の職員には勉強会や研修により基本からの指導をお願いします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけし、意思表示が困難な方には表情を読み取り本人が納得できるよう傾聴し理解に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の本人の気持ちを尊重してきつだけ個別の援助を行っている。本人の希望を尋ねたりしているが入浴、行事等スタッフの都合で決めることが少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えて鏡を見ながら本人の気持ちにそった支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを利用者と相談しながら決めるようにしている。色調や柔らかさ、季節の表れるものを取り入れ共に下準備している。	季節の旬な食材を取り入れ、カラフルな色合い(赤・青・黄色)味覚が楽しめ、家庭的な献立になっている。らっきょう漬けや梅干し、つくしのはかま取りなど利用者が昔からしていた作業と一緒にを行うよう努めている。また、訪問日は握り寿司をお店から1人前ずつパックしてもらっており、皆さん笑顔で完食されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせて摂取量チェックし、嗜好品、嫌いな物、食べやすい硬さ、大きさ等工夫して食事量も個々に合わせて調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて洗面所に行ってもらい利用者によってはスポンジ、ガーゼ、歯みがきの直接介助を行って口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子、日中の時間帯等、敏感に察知し、身体機能に応じて手助けし、なるべくトイレでの排泄にして尿意のない方には時間的にチェック表を使用。	チェック表を使用し、個々のパターンを把握し声かけを行っている。頻尿の方は精神的な事だけでなく病気の可能性が有るので、見極めを大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、十分な水分補給と、繊維質の食材を日常提供し、軽い運動、テレビ体操、歩行訓練をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入りたい人には、後回しにして、ゆっくり入浴してもらい、拒む人にも言葉かけの工夫をしている。	週2回の入浴を基本としている。入浴は好きな方が多いので、希望に合わせて入浴できるよう配慮している。拒否される方には無理強いせず、声かけを変えたり、時間をずらすなど対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の行動に配慮し眠剤を飲まれている方の睡眠状況を把握し日中の活動の妨げとなっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル作成し、お薬手帳に処方箋を貼り付け整理し、職員が内容を把握できるようにしている。本人の状態の変化には、記録を詳細にとり医療機関との連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事がしたい気持ちがあり日常生活特に、食事の準備、また楽しみ事などしてもらい庭での気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみ事、レストラン、洋品店への外出に伴っている。そこでお客さんと話したり店員と話したりするよう支援している。	季節を肌で感じてもらうよう、敷地内に植えている果物を取りに行ったり、庭を散歩するなど心がけている。家族にも協力して頂き、買い物や食事に行くなど心身の活性につながるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て持たれているお金を使って好きな物を買ってもらう支援をしている。自分で支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話や手紙を出せるよう支援し、必要物があれば家族に連絡し近況も伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度品はお年寄りが懐かしく感じる物品とし、家族でなごめるぬいぐるみを置いて季節の花を飾って季節を感じとれる工夫をしている。	フロアは広く、テーブルやソファなどそれぞれが居心地のよい場所で過ごすことができる。玄関には熱帯魚の水槽が置かれ、ときに利用者と一緒にポーッと眺めると落ち着くと話される。居間にはレトロな家具やぬいぐるみ、職員が持ち込んだ菖蒲の花が飾られ、季節を感じ取れる工夫がされている。	のんちゃん、あいちゃん2匹の愛犬が利用者の隣に横たわり、利用者は犬をなでながら楽しそうに話しかけている、そんなどこにでもありそうな家庭的な雰囲気に安心感を感じました。これからは家庭的というキーワードを大切に支援を継続して頂くことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き一人で過ごせるよう、また仲の良い人とくつろげるスペースをつくっている。配置にも気配りし、食堂や居間は全て視界に入る空間。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真や思い出の品々を居室に持ち込んでもらい居心地の良い部屋としている。	大きな2段の押入れが備え付けられており、部屋の片づけがしやすく、どの部屋もすっきりとしている。入居時には馴染みのタンスや思い出の写真等を持って来て頂いている。また、ベッドに寝ていても見えるようにとつるし飾りを天井からつるしている部屋もあり、職員の心遣いを感じました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室に目印をつけ本人に分かるようにする。手すり、杖、押し車を利用してもらっている。		